

ドイツ・フライブルク大学主催の「日本人学生のためのドイツ語サマープログラム」に参加して



本年度もフライブルク大学国際局と語学教育センターが主催する「日本人のためのサマープログラム—ドイツ語とドイツ文化」が2014年8月6日から29日までのおよそ1ヶ月の期間に開講された。フライブルク大学は1457年創立の、ドイツでは8番目に古い大学で、創立以来の歴史を持つ医学、法学、哲学、神学部の他に、化学・薬学部など11の学部を擁する連邦きっての総合大学である。

本学からの参加は、5名が初めて受講した2000年以来14回目を数え、今年度は27名の2年次、3年次、4年次生が参加した。徐々に30名に迫る勢いの大参加者数であった。

昨年度から本プログラムの運営方法が変わり、その移行期ということもあり不手際が重なり参加者に大変な面倒やら迷惑をおかけしたが、今年度はスタッフも充実し、スムーズな運営が戻ってきた。運営母体は変わったが大学構内には日本人・ドイツ人スタッフが常駐する参加者専用のサポートルームが用意されるなど、問題が発生した場合は昼夜を問わずスタッフが対応する即応体制は充実し、海外渡航未経験者でも安心して参加できる様々な心遣いは従来通りだ。

長年多くの参加者を送り出している本学のために、毎年特別プログラムが用意していただいているが、これも継続されている。今年度はフライブルク大学医学

部付属病院の院内薬局での見学会を開催していただいた。1年次に我が国の高度な医療現場を見学する機会があったが、参加者はドイツの最先端の医療現場を見学して、あらためて多くのことを学んだことだろう。

今回のサマープログラムに参加した2年次生の代表に「異文化体験」というテーマでドイツでの体験や思い出を投稿してもらった。この体験談を読んだり、体験者から直接話を聞いてサマープログラムに興味を持った人は是非とも次の夏休みにチャレンジしてほしい。一定の条件を満たした参加者には海外語学研修の単位が認定されることになっている。教室での授業は午前中で終了、午後には連日楽しいレクリエーションプログラムが用意されている。また週末には州内の都市、フランスやスイスへの日帰りバス旅行が予定されている。それにオプションとしてディズニーランドのお城のモデルとなったノイシュヴァンシュタイン城への遠足も予定されている。受講料は580ユーロ、宿泊は学生寮で寮費が300ユーロ（2014年実績）と驚くほど格安である。

この14年の間に300名近い先輩たちが強烈な文化の違いに格闘したフライブルクの町で、是非青春の1ページに残る熱い異文化体験をしてほしい。

ドイツ語担当准教授／日本フライブルク・アルムニ学会員  
ひろし  
桑形 広司

## ■ サマーコースを受講して

2年次生 荒木 祐哉

この夏の8月にドイツのフライブルクで過ごしました。3年次生でも行くことは可能ですが、研究室との兼ね合いでいけない可能性もあるので迷っている人はぜひ2年次生の時に行くことをお勧めします。

初めての下宿生活が海外だったので、初めは戸惑うことも多かったのですが数日もすれば慣れ、楽しく過ごせました。ドイツ語は聞き取るのがかなり難しいためドイツ人と会話するのはたどたどしい英語でしたが、ゆっくり英語を話してくれたり身振り手振りで説明してくれたり、人の温かみを感じることができました。



フライブルク大学



お別れパーティーでのクラス写真

フライブルク大学の授業は日本の大学と同じ90分授業が午前に2コマで、午後は自由な時間を過ごせます。授業では日常生活で使えるフレーズをゲーム形

式で学びました。習ったフレーズを買い物やレストランで使って通じた時はとても嬉しかったです。



スイスのユングフラウヨッホ



ハイデルベルク城

フライブルクはスイスやフランスの近くで、ドイツの北にも南にも行きやすい都市であったのでスイスのユングフラウヨッホや、ドイツのハイデルベルクやカールスルーエなど様々な都市に行きました。サマーコースの事務所では毎日イベントが開催されていて、僕はハイキングとビアガーデンに行きました。そして週末にはバイエルン地方のノイシュバンシュタイン城に行きました。城の中は見学することができ、素晴らしい眺めを一望することができました。そしてマリエン橋から見た城は今でも鮮明に覚えています。

この1か月間で海外の文化を知り日本の良さを再確認することができました。

この経験を将来に活かせればよいなと思っています。

注：ドイツでは18歳以上の飲酒は合法です

## ■ サマープログラム・ドイツでの生活

うかい さえか  
2年生 鶴飼 幸永佳

今年の8月の1カ月の間、ドイツのサマープログラムに参加させていただきました。私がこのサマープログラムに参加することを決めたのはただ海外に少しばかりの憧れをもっていただけでした。そんな単純な動機でサマープログラムに参加しましたが、ドイツでの生活は今までの生活では考えられないくらいに活動的で、本当に充実した1カ月間でした。

サマープログラムでは、午前中にドイツ語または英語の授業を受けた後、午後はフライブルク大学主催の特別授業やレクリエーションなどに参加ができました。ドイツ語の授業では、ネイティブのドイツ人の先生に教わりました。授業は全てドイツ語と少しの英語のみによって進められるので、先生が言っていることを理解するのも一苦労でした。しかも私の明らかな語彙力不足もあり、毎回の授業で何度も辞書を引いていました。そんな生活を送った成果もあり、最初の方は英語圏であることに甘えて英語でしかコミュニケーションをとれませんでした。最後の1週間ほどでは簡単なドイツ語を聞き取れるくらいには成長できました。午後の時間はフライブルクの市内観光、フライブルク大学の近くの小高い山へハイキング、バーベキューなど様々なレクリエーションに参加しました。このレクリエーションでは、日本以外の



コルマルの街並み

## ■ 行ってよかった！ドイツ留学

ゆきこ  
2年生 久保 薫子

私はこの夏ドイツのフライブルク大学でのサマープログラムに参加しました。

海外に行ったことがなく、英語は得意じゃない、もちろんドイツ語は話せない、そんな私はとにかく不安でいっぱいでした。

しかし、初めて尽くしのことばかりで、驚きと感動でいっぱいの日々を過ごすことができ、とっても楽しかったです。あっという間に過ぎた3週間でした。

休日にはフランスのコルマルやスイスのバーゼルに行ったり、フュッセンやイタリアのミラノへ旅行したりといろんなところにも行けました。

てきた方々とコミュニケーションをとるのは、言葉の壁が大きく、難しいなと思います。しかし、少しでも話ができて一緒に笑ったり、あいさつができたりするだけでも十分に楽しくて嬉しく思いました。サマープログラムには京都薬科大学の学生と薬学部の学生を対象にした薬局見学がありました。この薬局見学は、フライブルク大学の附属病院の薬局で行われ、中の案内は日本語に通訳をしてくださいました。見学させていただいた薬局はとても広く、高性能の機械もありました。日本には絶対に見られないドイツの薬局の見学ができ、また現場で実際に働いている方のお話が聞けて、とても貴重な体験になりました。また、レクリエーションに参加しない日の午後は友達と相談をして電車に乗って少し遠くに行ったり、学生寮に帰ってみんなで集まって夜ご飯を一緒に作って食べたりしました。電車やバス、またトラム（路面電車）はもちろん日本での様式と全く違うので、自分たちで計画をして出かけるのも結構大変でしたが、自分たちで調べて行動することに意味を感じました。

このように貴重な体験、楽しい体験をととてもたくさんドイツでさせていただきました。異文化とのギャップや言葉の壁があり、また初めて自分の家族と1カ月も離れての海外生活だったので大変なこともありましたが、しかし、その分の貴重な体験、一生記憶に残る思い出や大切な友達ができました。このサマープログラムを紹介してくださった桑形先生、サマープログラムの参加に協力してくれた両親に感謝します。この経験を活かしてこれから行動したいと思います。

他にも、大学のウェルカムバーベキューに参加したり、ワイン祭りやTitiseeという湖に行ったりと毎日が充実していました。

ドイツといえばソーセージとビールを想像するように、街にはたくさんの種類があり、特に、ランゲローテというソーセージをパンに挟んだものにはまってしまい、ほとんど毎日食べていました。基本は自炊をしていて、スーパーマーケットには殻に色の付いた卵など日本で見たことのないものがたく



ノイシュバンシュタイン城



授業で行ったSeeparkで

さん置いてあり、行くだけでワクワクし、寮のキッチンで友だちとごはんを作るのも毎日の楽しみでした。

もちろん、遊んでいただけではなく平日の午前中は授業があったので、毎日きちんとドイツ語の勉強をしました。日本とは異なり少人数制の会話中心の授業で、ボールを使ったり、音楽に乗ったりとゲーム感覚で、ワイワイしながらできました。少しドイツ語が分かるようになってきたとき、授業で公園に行き、ドイツ人に質問をするということをしました。このとき少しだけですが、会話をするのができ本当に嬉しかったです。ドイツに来た当初は出来なかったことなので、自分の成長が感じられた瞬間でした。

また、薬学生ということでフライブルク大学附属病院の薬剤部に見学に行くことができ、ドイツの医療現場を学ぶことができました。ドイツの薬剤師は医師や弁護士と同じぐらいの地位で、多くは町の薬局で働き人々の健康を支えているということにはビックリしました。

今回ドイツに留学して、異文化の人たちと話をして交流することがどんなに楽しいことかを知ることができました。また、薬剤部の見学や海外で生活するという貴重な経験によって、様々なことに対する視野が広がり、将来のことを考えるよい機会となりました。

この留学で学んだたくさんのお話を、これからの人生に生かしていきたいと思っています。

ドイツでサポートしてくださったスタッフの皆さん、いろんなことを教えてくれた先生とルームメイトのみんな、そしてドイツで出会った友だちに感謝の気持ちでいっぱいです。とっても楽しく、幸せな時間を過ごせました。Vielen Dank!



ノイシュヴァンシュタイン城にて

## ■ ドイツ留学

まき  
2年次生 岡村 真生

私は、8月にドイツのフライブルク大学に留学していました。フライブルクでの生活を報告したいと思います。

フライブルクは、フランクフルト空港からバスで3時間程度の位置にあります。

フライブルク大学の寮に着いたのはもう日付が変わる少し前でした。日本より街灯がはるかに少なく、夜に建物の外を歩くのは友達と一緒にいても初めてのころは結構こわかったです。

フライブルクに着いた次の日は、フリーだったのでフライブルク市内を観光しました。街のシンボルである大聖堂に行ったり、街中を散策して、日本の街並みとあまりにもかけ離れているので、まるで夢でもみているような気分でした。フライブルクでの生活に慣れた頃にこの日を思い出すと初心にもどれました。

大学での授業は、楽しかったです。ドイツ語でうたったり、ボールを投げて自分たちで問題を出し合ったりと外国語の習得の仕方が日本とは異なっていました。英語でドイツ語を学んでいたの



プログラム打ち上げ  
パーティーにて

で、ドイツ語も英語も両方勉強できてよかったです。教室では3つの言語が飛び交っていました。日本人だけのクラスでしたが、他の大学の学生さんとも友達になれてよかったです。

放課後や土日の過ごし方についてですが、日本にいるときとは比べものにならないくらい動きまわっていました。プログラムの初めのころは、フライブルク市内の丘に登ったり、大学のコース事務局主催のエクスカッションでボーデンゼーやフランスのアルザス地方へバスで行きました。慣れてくると、自分たちでチケットを取って、放課後にスイスのチューリッヒやバーゼルに鉄道を利用して遠出しました。最後の土日にはパリに行きました。言葉も完全には通じない、土地勘もない場所に行って、ハプニングが何度も起こりながらも無事に日本に帰ってこれたことは自信になりました。1人ではかなり難しかったです。チームプレーの賜物です。

寮での生活は最高でした。キッチンとバスルームが、私を含む4人での共用で、つかず離れずの距離感がちょうどよかったです。フラットメイトとは、キッチンで一緒にランチをしたり、遊びに連れて行ってもらったりしてお世話になっていました。

何度か国境をわたっていると、どの国に入ったのかわかるようになってきます。フランスやスイスからドイツに帰るとほっとしていました。フライブルクは心のふるさとです。

ドイツに行かせてくれた両親、行動を共にした友達、相談にのってくださった桑形先生をはじめ、たくさんの方に感謝します。



マルティン塔